（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成21年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	０９９０９０００１１		
法人名	株式会社ファミリーホームなか		
事業所名	グループホームきぬの里		
所在地	栃木県真岡市中３１３－３ （電　話）０２８５－８３－５３５５		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】（平成20年11月27日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成19年4月1日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　９人
職員数	８人	常勤8人,常勤換算8人

（２）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20,000円 ～25,000円	その他の経費（月額）	・光熱水費ー20,000円/月 ・清掃業務委託費ー3,000円/月 ・日用品費ー150円/月　・理美容代,おむつ代ー実費	
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（100,000円）	有りの場合 償却の有無	無 (退居時の居室の補修、修繕など)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（平成20年11月27日現在　）

利用者人数		９名	男性	２名	女性　７名
要介護１		４名	要介護２		２名
要介護３		２名	要介護４		１名
要介護５		名	要支援２		名
年齢	平均	84.4 歳	最低	80 歳	最高　93 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福田記念病院,報徳歯科診療所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは真岡市で初めて開設されたグループホームである。工業団地に通じる幹線道路沿いに位置しながらも周囲は林と田畑に囲まれた落ち着いた環境にある木造平屋の建物である。ホームと同じ敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所を建設中である。グループホームきぬの里の理念として「やすらぎとよろこびの日々」を掲げ、地域の中で家族とのつながりを大切にし、入居者一人ひとりが今までの生活を継続できるための支援を念頭に職員間でのケアの方針等の共有も図られている。ホームで認知症サポーター育成研修会を実施したり、職員が研修会などに積極的に参加して、より高い質を目指して取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果は運営推進会議に報告し、職員会議等で話し合っている。前回の評価をふまえ、質の確保、言葉づかいなどに目標を持って取り組み、また年度内にターミナルケアについて職員、家族会との話合いを実施する予定である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者は、前年度の評価を振り返り、出来なかった事柄を自己研鑽の機会ととらえ、全職員で自己評価に取り組んで話し合い、管理者がまとめ、更に職員間で話し合いまとめあげた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議を2か月に1回開催し、家族、区長、地域包括支援センター職員、市役所職員等がメンバーになっている。夏祭り等地域行事への誘いを受けたり、市の協力のもとで認知症サポーター養成研修会等の開催をしたり、その回覧を区長にお願いしたりと運営推進会議の場を運営に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月「きぬの里便り」に日頃の暮らしぶりを写真入りでコメントをつけて送付している。家族会が結成され、苦情解決体制は整っており苦情受け付け責任者及び市、国保連等の連絡先が重要事項説明書に明記されている。意見箱も設置しているが現在までに意見や苦情は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入しており、回覧なども回ってきている。夏祭りや秋の芸術祭など地域の行事に積極的に参加したり、ボランティア等との交流もしている。本年度から地域の小・中学校の授業の一環として施設訪問の依頼があり、受け入れる体制ができている。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で家族とのつながりを大切にし、一人ひとりの入居者が「やすらぎと、よろこびの日々」を今までと変わりなく継続できるように支援することを理念に掲げ、その実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催する職員会議の場や日常の支援の中で管理者が職員に確認をしたりして理念の共有・実践に努めている。日々のサービス提供場面（言葉かけ、態度、記録等）においても理念の反映がされている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧なども回ってきている。夏祭りや秋の芸術祭など地域の行事に積極的に参加したり、ボランティア等との交流もしている。本年度から地域の小・中学校の授業の一環として施設訪問の依頼があり、受け入れる体制ができている。訪問調査日には地元の方が大根を届けてくれ、入居者が畑に埋けている姿があった。	○	現在は家族に配布している「きぬの里便り」を充実して、地域の人達にホームでの暮らしぶりを伝えるということも検討している。また小規模多機能型居宅介護事業所も整備中であり、ホームへの理解を深め、地域との協力関係を築くきっかけとしていくという意味でも期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議に報告し、職員会議等で話し合っている。前回の評価をふまえ、質の確保、言葉づかいなどに目標を持って取り組み、また年度内にターミナルケアについて職員、家族会との話合いを実施する予定である。管理者は、前年度の評価を振り返り、出来なかった事柄を自己研鑽の機会ととらえ、全職員で自己評価に取り組んで話し合い、管理者がまとめ、更に職員間で話し合いまとめあげた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、家族、区長、地域包括支援センター職員、市役所職員等がメンバーになっている。夏祭り等地域行事への誘いを受けたり、市の協力のもとで認知症サポーター養成研修会等の開催をしたり、その回覧を区長にお願いしたりと運営推進会議の場を運営に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席のほか、市の担当者と情報交換や連携を密にし、勉強会や研修会等に積極的に参加している。管理者は市の認知症地域支援体制構築推進事業の委員として参加しており、そこで情報を得たりホームの状況を報告したりしてサービスの質向上に役立てている。	○	来年度から、地元の高校の実習生を受け入れる予定である。また、管理者自ら認知症キャラバンメイトとなっており、ホームで認知症サポーター育成研修会なども開催している。市との良い関係性も見えることから、今後も入居者が地域で生活しやすいような環境づくりを市と共にすすめていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「きぬの里便り」に写真・コメントつきで入居者の暮らしぶりを記入し、家族に送付している。また、毎月金銭管理の報告をしている。また、頻回にホームに来られる家族にはその際に健康状況を報告するなど、個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情窓口及び市、国保連、県運営適正化委員会の窓口を明記している。また家族会が組織化されており、定例会議が月1回実施され、そこで意見交換を行っている。	○	家族間の情報交換の場、また家族とホームとのつながりを大切にしたいとの思いから家族会を立ち上げた経緯があるので、今後も家族の声を聞きながら運営に活かしていくことに期待したい。さらに今後、看取りについて家族会で話合う予定であることからホームと家族の思いを共有していくことにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時に試用期間を設け、介護職員として適しているか見極めたうえで、採用している。今までに異動、離職者はいない。今後、同敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所が開設されることから異動があることを想定し、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしていこうと考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修への参加を積極的に促している。外部研修で得た資料を配布したり、内部研修として月1回のミーティング時（月初の16：30～18：30）に勉強会を実施したり、ケアについての情報誌等を参考にしたりしている。管理者は、働きながらの職員育成の計画をたて、資格取得に向けた取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入している。訪問見学等が多いので、相互訪問などで交流を深めていきたいと考えている。	○	管理者、職員が地域の同業者と日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図っていけるような関係構築をしていくことに期待したい。また、そのような関係の中で事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が自宅を訪問して本人・家族と面談をしたり、本人・家族にホームを見学してもらっている。本人の納得のうえで入居者の視点に立った柔軟な支援をしていくことができるように家族と相談しながら馴染みの関係づくりに努めている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、調理の下準備や配膳、後片付けなどを職員と一緒に行っていた。また、クリスマス会に行うハンドベルの練習を職員と一緒に行っている入居者の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で入居者の思いや、意向の把握に努めている。困難な場合は本人、家族から聞いた生活歴等を参考にしたり、日々の行動や表情からくみとって職員が家族の立場になって考えるなどして本人本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意見を聞き、またミーティングで職員が日頃の関わりの中から得た情報や意見、アイデアを出し合って介護計画を作成している。計画作成者も日頃のケアに加わっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しのほか、入居者の状況などに変化があった時は、そのつど家族、関係者と話し合って現状に即した計画の見直しに柔軟に対応している。また、計画の見直しについては、そのつど家族の了解を得ている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や病院受診の付き添いなど、その時々の本人、家族の要望に応じた柔軟な支援に努めている。職員の担当制を取り入れている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族、本人にかかりつけ医の確認をしている。通院の仕方、受診結果等、家族と連携を密にしている。かかりつけ医との連携を深めていきたいと考えている。また、ホームと同じ敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所を整備中であり、今後は同事業所の看護師に協力を得ながら日常の健康管理を充実させていきたいと考えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した時の指針を説明している。本人、家族の希望があれば、最期までホームでの生活を支えるということを管理者、職員間で話し合っている。年度内に家族会と終末期に向けた具体的な話合いを実施する予定である。	○	家族会と話し合いながら重度化・終末期への対応を含めて今後のホーム像を共有していくことに期待したい。また終末期への対応の意向があることから、かかりつけ医との協力体制や夜間・休日等の緊急体制、医療機関や看護職との連携など必要な準備をすすめていくことにも期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して、日々の声かけや対応の仕方について職員間で共有を図り支援している。また、個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止等に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースにそって見守りながら一緒に生活を送っている。基本的な一日の流れや行事等はあるが本人の希望に沿った行動の支援をしている。訪問調査時にも入居者と職員がソファーに座り談笑している姿があったりして、入居者一人ひとりが思い思いに過ごされていた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日おきに入居者と一緒に買い物に行き、食材を選んでいる。好みや食べられないもの等を考慮し、必要に応じてメニューを変える対応もしている。野菜切り、皮むきなど、職員が声かけ、介助、見守りをしながら職員と一緒に行っている。職員も入居者と一緒に同じ物を食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後1時くらいからの入浴時間帯を設定している。職員が見守りながら、おおむね20分～30分程度の入浴を支援している。また入居者同士で入浴の順番を決めるなど、それぞれの希望に応じたタイミングで入浴できるよう配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら活力を引き出す楽しみごとや役割の支援に努めている。プランターの植え込みや水やり、食事づくりの手伝い、後片付け、行事の飾りつけ、はり絵の下書きなど一人ひとりに合わせた役割が楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感の刺激としての外出の機会を多くしている。散歩に出掛けたり、車を利用して公園や神社などに弁当持参で出掛けたり、外食等で好みの物が食べられるよう支援している。また家族との外泊、外出などもある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けていない。夜間は防犯のために施錠している。玄関ドアを開けると音がするようになっており、職員の見守りで支援している。また、居室のドアは「玄関のドア」として居室から出る時は自らドアに鍵をかける方もいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会のもとで年1回の避難訓練を行っている。管理者は防火管理者の講習を修了している。	○	今後更に、事業所だけの訓練だけではなく地域の方の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に行っていくことにも期待したい。また、定期的に避難場所の確認、備蓄の準備等を職員と話し合ったり、夜間を想定した訓練など、いざという時の備えを充実させていくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立にもとづいて調理をし、入居者の好きなものや食べられないもの等への対応もしている。食事摂取量や水分摂取量（1日約1,300cc～1,500ccを目安に支援）を把握・記録し、適切な量が摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1)居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には観葉植物や季節の花、入居者の共同作業であるはり絵や作品が飾られて、穏やかな雰囲気が漂っている。天窓には夏の暑さ避けとして、職員の手作りの暖簾が掛けられていた。また室内に気になる臭い等はなかった。リビングにはテーブル、ソファー、テレビが置かれ、和室のこたつ等、入居者が思い思いに過ごせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇、テレビ等が置かれたり、家族の写真、好みの絵を飾ったりして、それぞれの居室づくりがされている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。